

# 学校評価シート（自己評価）令和5年度分

ひさみ幼稚園

## 1、園の教育目標

子どもたちに豊かな環境を保障して、子どもたちが環境との出会いの中で、驚いたり、感動したり、発見したり、考えたり自らの興味や関心の要求の質を高め、豊かなあそびや生活を展開し、人間として一番大切な非認知能力を身につけられる保育を目指している。

## 2、具体的な目標や計画

幼稚園の教育方針を教職員全体で共通理解を図って保育の質を高めていく。園内外の研修の定期的に行い、教職員間で相互理解と協力体制を整え、幼児理解と適切な援助方法を学ぶ機会を設ける。幼稚園の特色である動物飼育や自然遊びに継続して重点を置き、よりよい環境や設備を整えながら、子どもの心身の健やかな成長につなげていく。

## 3、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果(※)	結果の理由
ICTの実用	A	今保育業界で推進されているICT化を一昨年7月中旬から取り入れ、2年目を迎えたことで大分操作に慣れた。引き続きタブレットやスマートフォン、PCなどをツールとして保護者への連絡を円滑に行うことができた。また、バスに搭載した機能も利便性や安全性を高められた。さらに昨年の課題であった教職員の操作の習得もスムーズにできて、教員の仕事の効率化につながった。システム会社から頻繁に指導を受けることができ、クラス日誌や週案、保育計画等にICTシステムを活用できたことは、大きな収穫となった。今後も継続して実用化を図っていきたい。
感染症対策	B	5月から新型コロナウイルス感染症対策が緩和され、行事や保育活動が少しずつコロナ期前に戻ることができた。但し、感染症が完全に消えたわけではないので、安全面、健康面、衛生面には十分配慮した。特に手洗いやうがい、換気など徹底して、子どもの健康観察を十分に留意していった。それにもかかわらず、年間を通じて全国的にインフルエンザが流行したことで、園内でも感染が広がり、学級閉鎖をせざるを得ない状況になってしまった。今後もコロナ期の対応を活かして感染症対策をしっかりと講じていきたい。

適切な保育の推進と 保育者の専門性向上	A	昨今の保育業界では「不適切保育」という暗いニュースがトレンドになってしまっている。そこで、園長が改めて「愛情のある適切な保育」を目指すことが全教職員に伝えられ、その目標に向かって取り組んできた1年であった。また、コロナが明けたことで緩和された園外の研修会に参加できた。また、園内でも教員間の情報交換を綿密に行ったことで、個々の資質が明らかに向上していった。今後も保育者としての専門性や能力・技術を高められるように、年齢や経験の枠を越えてチームワークを大事にしながら教職員全体で切磋琢磨していきたい。
動物飼育の活性化	B	自園の特徴でもある動物飼育にもさらに力を注いできた。目白大学と連携して『園内におけるより良い飼育環境』の研究を進めることができた。ただし、その中の課題として、うさぎがストレスを感じる様子が度々見られた。引き続き、研究を重ねて、よりよい飼育環境や動物が子どもに与える心理的効果などを導き出していきたい。
安全管理	A	「園児バス置き去り死亡事故」というショッキングな事件が起きたことにより、置き去り防止装置をいち早く導入した。バス送迎時の安全マニュアルをもとに安心安全な体制を確立してきた。また、防犯対策として誘拐や不審者などに対処するため「危機管理マニュアル」などを再度整備した。今後はいつ何時起こり得るかわからない地震や火災に備えて、避難訓練を実施し、安全教育も強化していきたい。

#### 4. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
A	<p>今年度は新型コロナウイルス感染症対策が緩和されたことによって、園行事や通常保育がコロナ期前に戻ることになった。その面において、子どもたちの心身の発達を助長するため、質の高い保育実践を行うことができた。その代わりに、年間を通してインフルエンザが園内に広がったことは反省点となった。</p> <p>園長・副園長が推奨した園外の研修会に参加したり、園内研修の回数も増えたりして、教員たちが資質を向上しようとする姿勢が見られた。またそれが園全体としての保育力アップにもつながったと思われる。</p> <p>前年度7月から導入したICTシステムに慣れて、スムーズに使えるようになった1年であった。保護者と園双方の連絡やバス送迎などが円滑化され、教職員の事務仕事の効率化を実現できたことは大きかったと言える。今後もステップアップして活用の幅を広げたい。</p> <p>バスの置き去り事故を受けて、教職員一人ひとりの安全管理の意識が今まで以上に高ま</p>

	<p>ったことも大きな収穫であった。</p> <p>また、本園が重視している動物飼育にも力を入れ、うさぎの飼育環境の研究を始められたことも良かった。今後も研究を続けながら、よりよい動物飼育の方法を見出し、その結果を子どもたちの心身の健全な発達につなげていきたい。</p> <p>今後はさらなる保育者の資質向上や働き方改革、園内環境の充実と園設備の修理、預かり保育の拡充など課題は多い。様々な社会状況の変化に応じながら適切な保育を実践して、ひさみ幼稚園らしい心も体ものびのびした子どもの育成に力を注いでいきたい。</p>
--	---

○結果(※)について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保育者の資質や専門性の向上	本園の教員の資質や能力、心構えなどが明らかに向上してきている。園内外の研修会、保育現場での実践経験、保育教材の研究、教員間の情報交換を大切にして、さらなる保育力の向上に努めていきたい。園長が掲げる「保育者10か条」を基本において、教員一人ひとりの専門性を高める年にしていく。そのためにも教職員全体でチームワークを大事にしながら保育に携わっていきたい。
動物飼育活動の実践と探究	昨年から目白大学の先生と「うさぎの動物飼育の研究」を始めた。それを引き続いて研究していき、その結果を子どもたちの健全な心身の発達につなげていきたい。また、新たな試みとして、近隣の動物園と提携していくことを考えている。飼育員の派遣や講習会などを実施して、子どもたちの動物への興味関心を高め、思いやりや命を大切に作る心を育てていきたい。
「幼保小の架け橋プログラム」	昨今の教育界では、子どもに関わる大人が立場を越えて連携し、架け橋期（義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間）にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子供に学びや生活の基盤を育むことを目指す「幼少の架け橋プログラム」が重視されている。本園でも研修に参加し、小学校との連携を深めて保育実践の充実化を図っていきたい。
ICTの実用化と教員の負担軽減	昨年度に引き続いて、クラス日誌や週案、保育計画等にICTシステムを活用していきたい。それを上手に利用することで、今課題となっている教員の仕事の効率化や負担軽減に活かしていきたい。また、保護者が安心して便利に使えるシステムとして引き続き活用し、可能であればバージョンアップも視野に入れていきたい。
安全管理面の強化	地震や火災、台風などの自然災害はいつ起こるかわからない。その対策として、定期的に避難訓練を実施したり、防災グッズや設備の点検なども整備したりする必要がある。また昨今、幼い子ども犠牲になる事故や事件が多発しているため、防犯対策も必須と言えるだろう。

# 学校評価シート（令和5年度分 園関係者評価）

ひさみ幼稚園 学校関係者評価委員会

日時 令和 6 年 5 月 10 日（土）

18:00 ~ 19:00

出席者：評価委委員

保護者 学校評議員 地元企業関係者

教育関係者

## 1. 自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切であったか

- ・設定した目標は、遊び中心ののびのび保育で「環境を通して行う保育」や「非認知能力の獲得」を重視している点が、幼児の心身の成長発達にとって非常に良いと思われる。
- ・目標や計画は、幼児への適切な援助に重点を置き、保育の質を向上しようとする姿勢が、適切なものとして認められる。
- ・評価項目の設定も、現在の教育施設で課題となっている ICT システムの導入、安全管理を取り入れており、現在の社会状況に合わせている点が特に妥当性が高いと思われる。

## 2. 評価結果の内容は適切であったか

- ・先駆的に ICT を活用した点は評価すべきである。教員の負担軽減や保護者の利便性を図ろうとする園の姿勢が望ましいと思う。また、課題となっていた操作方法について、しっかりと学んでいったことも評価できる。今後も反省点を生かしながら活用して行ってほしい。
- ・感染症対策が緩和されたにもかかわらず、日常の保育や行事の中で感染症にかからない工夫や配慮を施していた点が評価できる。園内でインフルエンザの感染が広がって学級閉鎖が増えたことは、全国的にも流行したため、致し方なかったであろう。その後、対策を強化して感染を抑えられ、大きな行事を遂行できたことは良かった。
- ・「不適切保育」が全国の一部の保育施設で行われ、保育界も世間から厳しい目で見られるようになった点は、かなりやりづらかったと思われる。そこで、園長が「愛情のある保育」を改めて教員に伝え、それを実践していったことは当園らしかった。また、常に保育者の資質向上に重きを置いているところも、並々ならぬ努力と熱意を感じられた。今後も教職員間の情報交換にも重きを置いて、子どもへの愛情あふれる保育を続けて行ってほしい。
- ・園の特色でもある「動物飼育」について、さらに研究心をもって取り組んでいる点は望ましい。大学の専門家と連携をとれるところも、園長・副園長の人脈ならではのことと思う。他園ではできない実践と研究を行い、子どもの心身の発達につなげて行ってほしい。様々な課題もあると思うが、今後も継続してほしい。
- ・安全管理も、昨今の子どもが犠牲となる事件が多いので必要不可欠だろう。バスの置き去り防止装置も迅速に設置した点も評価できる。自然災害や防犯対策も引き続き強化して行ってほしい。

## 3. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

- ・各項目ともに、社会情勢や幼児教育の流行をきちんと分析し、取り組むべき課題がきちんと挙げられる点が望ましい。
- ・教員の資質や専門性向上を掲げる点は、何よりも大事なので適切だと思われる。
- ・小学校の連携を設定したことは、これからの日本の教育の課題でもあるので正しいと思われる。
- ・まだ導入したばかりで、負担はあると思われるが ICT 化の実用化を掲げている点も評価できる。
- ・安全管理面は、子どもを預かるうえでも最重要な課題であると言える。

#### 4. 今後取り組むべき課題は適切に行われているか

- ・教員の資質や専門性の向上は、よりよい保育をするうえで最重要課題となるので、このまま継続してほしい。但し、教員の負担軽減も叫ばれている世の中になっているので、上手くバランスを取りながら行ってほしい。
- ・園の特色の1つである動物飼育にさらに力を入れようとする点は評価に値する。目白大学の教員や幼少年教育研究所自然部会と連携をとり、動物飼育の研究は期待がもてる。子どもの心身の成長につながる結果が出ると良いだろう。また、近隣の動物園とのコラボレーションはとても楽しみである。直接、何度も動物園と交渉してきた副園長の熱意と努力を感じる。動物飼育を生かした保育実践は、今後も継続してほしい。
- ・幼保小の架け橋プログラムに着目して、主体的・対話的保育の実現を図ろうとするところは、さすがである。一人ひとりの多様性を大事にしながらの保育の難しさはあると思うが、小学校や大学教授との連携をとりながら実践してほしい。
- ・ICT化についても、教員の業務の効率化や保護者の利便性を大切にしている点が窺えて、園として素晴らしい姿勢だと思う。
- ・安全管理についても、防災・防犯マニュアルや設備、グッズなどを整備して、さらに強化していこうとしている点は評価に値する。